

■ 医 薬 ■

「創薬」と「製剤技術」日々進化

製薬業界のモノづくりは、二つの点で日々進化を続けている。最も重要な要素は、画期的な新薬を生み出す「創薬」をめぐる取り組み。これがない企業は退場を余儀なくされる。そして、新薬をより多く普及させるために飲みやすい形状（剤型）にしていく製剤技術も重要な。国内企業のグローバル化が進み、急速に事業環境が変化している。だが、創薬と製剤技術の重要性は今後も変わらない。



第一三共が買収したインド・ランバクシー本社

と違う技術やノウハウが、に強い国内企業は技術シフトが遅れた。そのため

難易度高い疾患にシフト

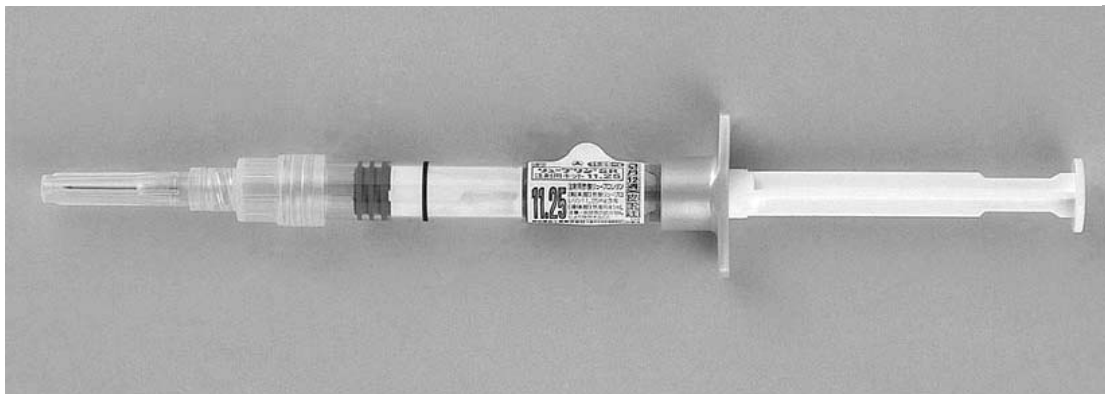
これからの疾患ではヒトが持つ免疫機構を活用した「抗体医薬」など従来



ゼリア新薬工業が買収したティロツファーマのジープフェン工場

一三共の中山譲治社長は、2005年以降、新規技術や開発品を持つ海外企業の買収が活発化している。とくにがん領域は大型買収が続いた。08年に米ミレニアムを買収した武田薬品工業の買収額は約8800億円、米OSIファーマシューティカルズを10年にアステラス製薬が買収したときは約3700億円を投じている。一方、第一三共は新興国に強いインドのランバクシー・ラボラトリーズを買収した。その流れはゼリア新薬工業や久光製薬のような中堅企業でも同様だ。ゼリア新薬は09年にスイスの製薬企業ティロツファーマを約1200億円で買収した。ティロツは世界約60カ国で売れている炎症性腸疾患治療剤「アサコール」を持っていた。それを活用し、アジア展開を始めている。久光製薬は09年にはり薬など経皮吸収治療システム（TDDS）技術に強い米ノーベン・ファーマシューティカルズを約400億円で買収した。

患者・家族の負担少なく



剤型工夫し飲みやすく

一方、剤型を工夫して、患者が飲みやすくなり服用回数を減らしたりして飲み忘れを防ぐ技術は製剤技術と呼ばれる。これまでは「効く薬づくりを優先してさほど重要視されなかったが、高齢者が医薬品のメインターゲットである昨今、必要な技術として存在感を高めている。アステラス製薬が国内で最初に開発した口腔内崩壊錠（OD錠）は、口のなかで水なしでも飲める錠剤。多孔質にして唾液が内部に入りやすくするのが基本だが、医薬品の有効成分は血中の濃度が高くなりすぎても低すぎてもいけないため、飲みやすくても成分の放出は通常と同様にする必要がある。錠剤の設計に蓄積された技術が要するといふ。武田薬品の前立腺がん治療剤「リュープリン」

武田薬品の湘南研究所



併せて、最近では大学やベンチャーが持つ技術を用いるオープンイノベーションが盛んだ。アステラス薬の畑中好彦社長は「外に良い技術があればそれを使って低コストで創薬する」という考え方が当たり前になった」と説く。

武田薬品工業は、オープンイノベーションを促進するため、12年から湘南研究所（神奈川県藤沢市）に外部の研究者を招いて共同研究する取り組みを開始した。自社の施設に招くケースは珍しいという。「研究開発の効率化は喫緊の課題」（武田薬品の長谷川明史社長）で、有効な手段を探る試行錯誤が始まっている。日本の創薬力は世界の中でもトップレベルだ。世界の国別の新薬創出力は米国、英国に次ぐ第3位にある。だが近年、開発競争の果てに新薬開発の難易度が上がり、新興国も膨大な資金・人材を投入し追い上げる。国内では研究開発の競争力強化へ産学官やベンチャーの連携を円滑にする仕組み作りが進みつつある。

復権モノづくり

明日に向かって飲む！

肝臓水解物が弱った肝臓をサポート [効能・効果] 滋養強壮、胃腸障害時などの栄養補給

薬局・ドラッグストアで買い求めください。ゼリア新薬工業株式会社 お客様相談室 03-3661-2080 (9:00~17:50 土・日・祝日を除く) <http://hepa.jp/>



ゼリア新薬
ZERIA



第3類医薬品

体のお疲れに。

新ヘパリーゼドリンク